

第三者評価結果シート・コピー（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK15013
S15086

③施設名等

名称：	仙台天使園
施設長氏名：	土倉 相
定員：	80名
所在地(都道府県)：	宮城県
所在地(市町村以下)：	仙台市太白区茂庭台4丁目1-30
T E L：	022-281-5181
U R L：	http://www.tensien.com/

【施設の概要】

開設年月日	1966/3/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人ロザリオの聖母会
職員数 常勤職員：	35名
職員数 非常勤職員：	12名
専門職員の名称（ア）	児童指導員
上記専門職員の人数：	17名
専門職員の名称（イ）	保育士
上記専門職員の人数：	12名
専門職員の名称（ウ）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（エ）	調理員
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称（オ）	看護師
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（カ）	心理担当職員
上記専門職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	6ユニット(1人部屋18か所、2人部屋10か所、3人部屋4か所)
施設設備の概要（イ）設備等：	親子訓練室
施設設備の概要（ウ）：	地域交流ホール
施設設備の概要（エ）：	地域小規模児童養護施設「さくら」

④理念・基本方針

<p><基本理念></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童の最善の利益を追求する 2 子ども自身の意見表明権を尊重する 3 児童の人権と命の尊厳の尊重 4 職員から「愛されている」ことを子ども自身、実感出来る養護を形成する <p><養護基本方針></p> <p>キリスト教的世界観、人間観を土台として、次のような子どもを育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祈り、感謝することのできる子ども ・ 明るく美しい心を持った子ども ・ 自主的に責任を持って行動できる子ども ・ 困難にくじけず、正しく生きる強い子ども

⑤施設の特徴的な取組

施設には、4年前から寄付金を子どもの自立資金として給付する独自の「自立支援金」制度があり、退所後の子ども達の生活支援に充てています。
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/7/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	※確定後、入力
受審回数	2回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

<p>【評価が高い点】</p> <p>◇子ども達の地域交流を大切にしています 施設では、サッカー・バレーなどのスポーツ少年団への加入や夏祭りへの参加など、子どもと地域との交流を広げるための取り組みを積極的に行っています。また、施設内のクラブ活動に地域の子どもを受け入れるなど、地域との関わりを大切にしています。</p> <p>◇地域小規模児童養護施設において適切な養育支援が行われています 地域小規模児童養護施設「さくら」では、子どもの日課は食事の時間を除き、子どもの意志を尊重した柔軟なものとなっています。また、町内会や地域住民との交流の場を多く設け、子ども達が社会的ルールを習得するよい機会となっています。職員が毎食一人当たりの食材の量を詳細に記録しており、子どもの発育に必要な栄養摂取量を勘案しながら、配慮のこもった食事を提供しています。</p> <p>◇適切な心理的ケアが行われています 施設では心理療法室を整備し、心理担当職員2名を配置して心理的ケアが必要な子どもへ個別にプレイセラピーや面接などを実施しています。心理担当職員は、担当職員と子どもの日々の生活場面での情報を共有しながら、自立支援計画の支援の内容等を確認し、ケース会議に出席しています。また、児童相談所の心理担当職員との情報交換会を実施しており、連携しながら支援を行っています。 心理担当職員は、「ココロコラム」という資料を作成して、職員の子どもに対する心理的理解が深まるよう職員会議の際に配布しています。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>◇被措置児童等虐待の届出・通告制度のマニュアル整備を期待します 施設では、被措置児童等虐待の届出・通告制度については研修会に参加する等、被措置児童等虐待対応ガイドラインについて職員に周知しています。しかし、その制度についての対応マニュアルは整備されていません。今後、早急に整備することを期待します。</p> <p>◇スーパービジョン体制の確立が望まれます 施設では、スーパーバイザーを専任化しておらず、主任などが相談・助言を行っています。しかし、自己評価において「スーパービジョン体制が確立していない」「不十分である」との回答が多いことから今後、スーパービジョン体制を確立して機能させていくことを期待します。</p>

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

--

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【コメント】 施設の理念や基本方針は、事業計画に明記されており、パンフレットにも掲載しています。職員への周知は、年度初めに理事長より会議の場で説明しています。また、ホームページを開設しており、地域住民や保護者等も施設の考え方や姿勢を知る事が出来ます。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b

<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	

【コメント】

施設では、全国児童養護施設協議会や各種研修会から得た最新の福祉情報を、全職員が会議等で共有しています。また、施設長が地域の懇談会に参加し、地域との結びつきを大切にするとともに地域の特徴を把握しています。今後は、施設経営の安定性や将来への展望を描く上でも、施設経営について定期的に分析しておくことを望みます。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

施設では、経営状況や課題について、役員間で話し合い共有しており、職員には理事会の議事録の閲覧や会議で施設長から周知しています。経営環境と経営状況の把握・分析にもとづき、取組を進めていますが、今後は、経営課題の解決と改善に向けて具体的な取組を望みます。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

施設では、家庭的養護推進計画において、平成41年度までの中・長期計画を作成していますが、計画に伴う収支計画が策定されていません。今後は、中・長期計画を実現するためにも収支計画の策定を期待します。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

施設の事業計画は、中・長期計画を踏まえ、地域小規模児童養護施設の次年度の開設に向けて準備を明記しており、拠点となる地域小規模児童養護施設の物件を確保するなど、計画が進められています。今後は、事業計画の実施状況の評価が行えるよう、事業計画に数値目標や具体的な成果等を設定することを期待します。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】		
施設の事業計画は主任会議で話し合いを行い、方向性を決めて理事長と施設長が決定しています。しかし、「実施状況の中間評価が不十分」とのことから、今後は十分な評価を行い、その評価結果にもとづき事業計画を見直しを行い、策定することを期待します。		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】		
施設では、入学式のお祝い会で事業計画を子ども達に説明をしています。また、養護目標を玄関ホールに掲示するとともに各ユニットの担当職員から説明を行っています。今後は、内容を分かりやすく説明した資料を作成し、配布することを期待します。		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	
【コメント】		
施設では、養育・支援の質の向上に向けた取組みとして、職員一人ひとりに担当指導職員を決めて、OJT研修を実施していますが、PDCAサイクルの評価・分析については課題としています。今後は、施設として第三者評価を含め、評価結果を分析・検討する場を設け、実行されることを期待します。		
②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

施設長は、人材確保のためにSNSを活用し、職員の採用に繋げています。また、毎週、主幹・総括主任と連絡会議を開催し、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて取り組んでいます。今後は、具体的な体制を構築するなど、実効性を高める取組を期待します。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

施設では、施設が目指す養育・支援のため積極的に各種加算職員の配置を行い、退職者が出た場合には補充に努めています。しかし、養育・支援に関わる専門職の配置等、必要な人員体制について具体的な計画がありません。今後は、養育・支援の質の向上のためにも計画の策定を期待します。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。	

【コメント】

施設長は、年2回の職員面接とアンケートを実施して職員の意向・意見を把握しています。今後は、「期待する職員像等」や人事基準を明確にし、職員の働く意欲に繋げていくための総合的な人事管理の構築を期待します。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	

<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

施設では、アンケートの実施や施設長との面接等によって、職員の就業状況や意向の把握し、福利厚生に力を入れています。しかし、職員が相談しやすい工夫や相談を受付けた後に、解決を図る体制が整備されているとは言えません。今後は、職員が心身ともに健康で安全に働けるようワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境作りを期待します。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

施設として「期待する職員像」等を踏まえた施設の全体目標を明確にし、そのうえで職員一人ひとりの目標を設定し、取り組むことを期待します。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

施設では、策定された研修計画にもとづき研修を実施していますが、施設が必要とする職員の知識や技術、専門資格について具体的な目標が明記されておらず、整合性のある体系的な計画とは言えません。今後は、職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定し、教育・研修を実施していくことが望まれます。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

【コメント】

施設では、全職員がOJTの目標を掲げ、その研修の成果を「OJT研修報告書紀要」として印刷し、関係者に配布しています。外部研修は、階層別・職種別・テーマ別研修等に職員が参加しています。今後は、職員一人ひとりの知識や技術水準を把握したうえで、必要とされる研修が適切に実施されるよう期待します。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

施設では、実習生等のマニュアルを整備し、年度毎に実習要領を作成しています。また、実習予定者を年度始めに招集し、実習生心得や実習内容を事前に説明したうえで、実習生を受け入れています。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

施設では、ホームページに養育・支援の内容、決算情報、第三者評価の受審結果等を公表しています。また、施設長が地域懇談会に出席し、機会があれば施設の役割を説明するなど情報発信に努めています。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○	

【コメント】

施設では、定期的に法人監査を受けており、さらに外部の専門家の公認会計士の指導を受けるなど経営改善に努めています。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 施設では、サッカー・バレーなどのスポーツ少年団への加入や夏祭りへの参加など、地域との交流を広げるための取組を積極的に行っています。また、施設内のクラブ活動に地域の子どもの受け入れるなど、地域との関わりを大切にしています。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力をしている。	○
【コメント】 施設では、「ボランティア受入れマニュアル」と社会人用・学生用、それぞれの「ボランティアの心得」を作成しています。また、学習・洗濯・衣類の補修、草刈り等のボランティアを受け入れており、ボランティア担当者を配置しています。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	
【コメント】 施設では、関係機関の一覧を作成し、児童相談所と連携を密にして子どもの養育・支援に努めています。また、地域懇談会や学校の集まり等に参加し、情報を共有しています。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○

	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	

【コメント】

施設では、クリスマス会に地域住民を招待したり、町内会主催の行事へ施設のスペースを提供するなど、施設を地域に開放しています。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

【コメント】

施設では、職員が地域懇談会等に参加して地域のニーズ把握に努めています。今後は、社会福祉事業にとどまらず、関係機関と連携し、地域貢献事業に取り組むことを期待します。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
-------------------------	-------------

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

【コメント】

施設の事業計画には、基本理念として子どもを尊重した養育・支援が明示されています。また、子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等も策定されています。しかし、子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設内の共通理解に努めていますが、定期的な状況把握や評価を行うまでには至っていません。今後は、定期的な実施を望みます。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○

<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○

【コメント】

施設は、居室がユニット型で少人数での生活が基本となっており、個室ではない子どもの部屋においても、机などで個人の空間を区切るなどプライバシーに配慮しています。また、職員が居室へ立ち入る際は、ドアをノックしたり、声掛けをするなど、子どものプライバシーに配慮し対応をしています。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

施設では、ホームページを開設し施設を紹介しています。子どもと保護者向けに作成した「仙台天使園のきまり」という冊子やリーフレットは、写真等を使用して誰にでもわかりやすい内容にしています。また、入所前の見学等の希望も対応しています。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

施設では、養育・支援の開始にあたり、保護者への説明は「仙台天使園のきまり」という冊子などを使用し、説明しています。意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮については、基本的な対応の流れはありますが、ルール化されたものとはなっていないので、今後は、ルール化することを期待します。

③ 32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○

	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

施設では、措置変更や家庭復帰に関しては、継続性に十分に配慮し引継ぎ文書を定め、関係機関と情報交換や協力をして実施しています。施設を退所した際は、子どもや保護者等に対し、担当者やその後の相談方法について説明を行っていますが、今後は、その内容を記載した文書を渡すことを期待します。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	<p>33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

施設では、子どものたちの意見を聞く仕組みとして、年に1回のアンケート調査と個別面談を実施しており、子どもの満足の向上に努めています。また、子どもからの意見を聞く取り組みとして、児童自治会「四季の会」があり、子どもと職員が生活改善に向けて協議する機会を設け、生活の改善に繋げています。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	<p>34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。</p>	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

施設では、苦情解決体制が整備され、苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物と苦情箱が設置されています。苦情内容に関する検討内容や対応策については、子ども達に必ずフィードバックしています。

②	<p>35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。</p>	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

施設では、子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明していますが、今後は、文書を作成し配布することを期待します。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

施設では、意見箱の設置やアンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っていますが、対応において迅速性に欠ける面があります。相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアルの整備を期待します。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

施設では、「事故対応の基本マニュアル」「地震マニュアル」等のマニュアルを整備し、毎月、防災訓練を実施しています。しかし、子どもの安心と安全を脅かす事例を収集し、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策や再発防止策を検討・実施する等の取組が十分ではありません。今後は、子どもの安心と安全のためにも体制整備とヒヤリハット報告を含む、仕組みの構築を期待します。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	

【コメント】

施設では、感染症の予防と発生時の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底しています。また、インフルエンザなどの感染が心配される場合は、別室に隔離できるように対応しています。感染症が心配される時期には、看護師が資料を作成し、注意喚起しています。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○

【コメント】

施設では、自衛消防隊を編成し、毎月、防災訓練を実施しています。また「地震マニュアル」を作成し、徹底して人命保護を最優先としています。また、災害が発生の場合、通学時における対応について学校と取り決めをする等、災害対策に万全を期しています。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

施設では、養育・支援についての標準的な実施方法は、事業計画とは別に養護目標を設け、生活支援・学習支援・健康支援・安全対策等の他、業務マニュアルなどを文書化しています。今後は、職員に周知徹底するための方策や実施されているかどうかを確認する仕組みの構築を期待します。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

施設では、養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しについては、時期を定め実施しています。今後は、検証・見直しにあたり、子どもからの意見や提案が反映されるような仕組みづくりを期待します。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○

<input type="checkbox"/>	□アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
<input type="checkbox"/>	□部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	□自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
<input type="checkbox"/>	□自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	□自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
<input type="checkbox"/>	□支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

施設では、自立支援計画を策定するための手順書として「自立支援計画進め方」を作成し、共通理解のもと自立支援計画を策定しています。また、自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示され、策定にあたっては施設の関係職員が参加して、アセスメント等に関する協議も実施しています。「自立支援計画進め方」の内容については、さらに作成にあたる留意点等を加えることを期待します。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
<input type="checkbox"/>	□自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	□見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	□自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
<input type="checkbox"/>	□自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

施設では、自立支援計画の見直しについては、見直しを行う時期を定め、子どもの意向を確認し実施しています。また、担当部署で見直した自立支援計画は、全体の会議で確認し全員が共有しています。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
<input type="checkbox"/>	□子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
<input type="checkbox"/>	□自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
<input type="checkbox"/>	□記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/>	□施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	□情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
<input type="checkbox"/>	□パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

施設では、担当部署毎の日誌に子どもの生活状況等が記載されており、4つの部署の日誌のなかで全職員が把握する必要のある情報は、全体日誌にまとめ、全職員が閲覧する方法で情報共有されています。子どもの生活状況等についても、丁寧に記録されています。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

施設では、子どもに関する記録は園長室内の耐火金庫に一括保管しており、閲覧は園長室のみとし、原則、持ち出し禁止となっています。個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策として、USBの一括保管とメモリーの園外持ち出しを不可としています。さらに個人情報保護規程の理解を深め、支援していくことが望まれます。

□

内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○

【コメント】

施設では、事業計画の基本理念に「子どもの最善の利益を追求する」を掲げ、職員の共通理解のもと、日々の養育・支援において実践しています。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○

【コメント】

子どもの出生や生い立ちについては、子どもの発達段階や状況に配慮して児童相談所との連携を行いながら適切に実施しています。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○

<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

【コメント】

子どもの権利については、児童相談所ケースワーカーが来所して一人ひとりと面接し、権利について説明しています。また、年齢に配慮したCAP研修も実施しています。今後は、職員が日常的なケアの視点として定期的に子どもの権利について学習する機会を持つことを期待します。

(3) 他者の尊重

① A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。	
<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	

【コメント】

施設では、問題が起こる毎に丁寧な振り返りを行い、自他の権利を尊重することを伝えていますが、なかなか浸透に至らないと感じています。

(4) 被措置児童等虐待対応

① A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	

【コメント】

施設では、被措置児童等虐待防止に関する研修に積極的に参加しており、体罰の禁止は、常日頃、職員間で強く意識し確認を繰り返しています。

② A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○
<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	

【コメント】

施設では、不適切なかかわりを防止するために、複数の職員での対応や女子の居室には男子職員を配置しないなど、配慮をしています。今後は、子どもが自分自身を守るための知識や、具体的な方法について学習する機会を設けることを期待します。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

施設では、被措置児童等虐待の届出・通告制度については研修会に参加する等、被措置児童等虐待対応ガイドラインについて職員に周知しています。しかし、その制度についての対応マニュアルは整備されていません。今後、早急に整備することを期待します。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○

【コメント】

施設は、キリスト教の施設ですが、子どもの思想や信教の自由は保障されています。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	

【コメント】

施設では、子どもの入所に際して職員が事前に児童相談所に出向き、子どもと面接して「待っているからね」というメッセージを伝え、歓迎する姿勢を示しています。また、入所当日は、温かい寝具を用意して迎え、子どもの好きな食べ物や用意してほしい服、好きなキャラクターなどの事前情報を得て、担当職員と一緒に買い物に出かけるなど、分離に伴う不安の軽減に努めています。また、分離不安が強く、なかなか施設になじめない子どもについては、個別対応職員が親子訓練室「やすらぎの家」で、食事や入浴をさせ、個別に対応しています。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○

【コメント】

子どもからの意見を聞く取り組みとして、児童自治会「四季の会」があり、子どもと職員が生活改善に向けて協議する機会を設けています。子どもからの要望については職員会議で決議し、その結果を子どもに伝えています。今後、施設では「小規模化に向けて、子どもの日課や生活プログラムについての考え方を見直す必要がある」と考えています。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○

【コメント】

余暇の過ごし方については、子どもの主体性を尊重しており、施設内のクラブ活動のほか、外部から講師を招いての絵画教室やピアノ教室があり、自己表現を通して自己肯定感を高めるよう取り組んでいます。また、施設のプレイルームや地域交流ホールには、図書・雑誌・テレビ・ピアノ・卓球台などがあり、子どもが自分の興味や趣味に合わせて自由に使えるよう整備しています。貸出用のタブレットがあり、ルールに従って使用するよう支援しています。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○

【コメント】

毎週土日は、職員と子どもと一緒に服やおやつを買い物に行く機会を設けています。小遣い帳は、年齢に関係なく自分でつけられる子どもは自分で記入し、残高や使途について職員と話し合い、経済観念の確立に向けて支援しています。

自立を控えた子どもの金銭管理については、一定の生活費を渡してプログラムとして実施していくことが今後の課題と考えています。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	

【コメント】

家庭復帰にあたっては、家庭支援専門相談員が児童相談所の職員とともに家庭訪問をして、家族の状況や意向の把握に努めています。しかし、家庭復帰後については児童相談所との役割が明確にされておらず、今後、関係機関と連携を図りながらアフターケアを充実させていくことが望まれます。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/>	高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

現在、入所している子どもは全員高校に進学していますが、高校を中退した子どもや高校卒業後に就職が決まらなかった子どもについては、再受験や専門学校への入学・就職など、個々のニーズに沿った自立の目標に向けて措置継続や措置延長を利用して継続的に支援しています。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/>	子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
<input type="checkbox"/>	退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
<input type="checkbox"/>	行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/>	退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

施設には、4年前から寄付金を子どもの自立資金として給付する独自の「自立支援金」制度があり、退所後の子ども達の生活支援に充てています。また、子どもがより良い進路を選ぶことができるよう、情報収集を心がけています。今後は、一人ひとりの子どもの自立支援計画に基づく、退所後の生活を見据えたリービングケアへの取り組みと、アフターケア体制の整備が望まれます。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	b
<input type="checkbox"/>	職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/>	子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】		
職員は、カトリック教育に基づき、子どもが必要とされている、愛されているという実感を持てるよう寄り添いながら支援しています。また、一人ひとりの子どもが抱えている課題の背景を理解するために、ケース検討会を重ね、日常生活の中からさまざまな角度で子どもを捉えるよう努めています。		
②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○

<input type="checkbox"/>	基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども一人ひとりの基本的欲求は、「在園児童の現状及び自立支援計画票」により把握されています。高校生に対しては、低年齢の子ども就寝後や移動中の車の中を利用して、職員と自由に会話する時間を設け、子どもとの関係性を大切にしていますが、子ども一人ひとりと個別に触れ合う時間の確保が難しいと感じています。地域小規模児童養護施設「さくら」では、子どもの日課は食事の時間を除き、子どもの意志を尊重した柔軟なものとなっています。今後、小規模化に向けて個々の子どもの状況に応じて、柔軟に対応できるような体制を整備していくことが望まれます。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
<input type="checkbox"/>	子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

朝夕の忙しい時間帯は、職員体制に配慮し、子ども一人ひとりへ声掛けするよう努めています。しかし、職員は子どもを信じて見守る姿勢を大切にしようと心がけていますが、どうしても口数が多くなり、管理的になってしまうと感じています。また、ユニット内の掲示物にも禁止用語が多いことから、今後は、管理しなければならないことに留意しながらも見守る姿勢を意識していくことが望まれます。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/>	施設内での保育が、年齢や発達状況に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	幼稚園に就園させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども達の遊びや学びのニーズは、日常会話の中や児童自治会から把握しています。学習や遊びのボランティアを活用し、中学生以上の子どもには、インターネットの使い方の習得に向けて、パソコンやタブレットが使用できる環境を整備しています。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
---	--	---

<input type="checkbox"/>	職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気です。生活が営まれている。	
<input type="checkbox"/>	普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	
<input type="checkbox"/>	施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	
<input type="checkbox"/>	地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○

【コメント】

子どもたちは、夏祭りやかかし作りなどの地域行事に積極的に参加しています。特に地域小規模児童養護施設「さくら」は、町内会や地域住民との交流が多く、社会的ルールを習得するよい機会となっています。施設では、社会規範は普段から職員が振る舞いや態度で示すことが大切だと感じており、社会的養護の目的を共有しながらチームケアを進めていこうと考えていることから、今後の取り組みに期待します。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
<input type="checkbox"/>	食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○
<input type="checkbox"/>	無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
<input type="checkbox"/>	食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
<input type="checkbox"/>	陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるよう工夫している。	
<input type="checkbox"/>	クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	施設外での食事、来客を迎える際の食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○

【コメント】

食事は、厨房で調理されたものを大皿に入れて各ユニットに運び、職員と子どもが厨房の盛り付け、見本を参考にしながら、各自の食器に盛り付けています。栄養士は、栄養面に配慮しながらできるかぎり家庭的なもの、季節を感じられる料理になるよう工夫しています。また、アルバイトなどで食事の時間に間に合わない子どもについては、多めにとりわけ、ユニット内の電子レンジや冷蔵庫を活用しておいしく食べられるよう配慮しています。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
<input type="checkbox"/>	配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
<input type="checkbox"/>	定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
<input type="checkbox"/>	少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○

【コメント】

嗜好調査については、年に1度、子どもたちに自由記述式のアンケートを実施しており、その結果を反映して可能な限り子どもの嗜好を考慮した食事を提供しよう心がけています。また、食物アレルギーのある子どもや病児に対しては、代替え食で対応するなど、健康状態に配慮した食事を提供しています。地域小規模児童養護施設「さくら」では、毎食一人当たりの食材の量を記録しており、子どもの発育に必要な栄養摂取量を勘案しながら、配慮のこもった食事を提供しています。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつ の 摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○

【コメント】

施設では、子どもが栄養についての正しい知識を得られるよう、栄養士がメニュー表にメモ書を入れてあります。また、偏食のある子どもには無理強いせず、一口ずつでも食べられるようにして食べず嫌いにならないよう配慮しています。

施設では、将来的には各ユニットでの完全調理を考えており、現在、炊飯を開始しています。今後、厨房職員と連携しながら食育への積極的な取り組みが望まれます。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

施設では、子どもに清潔な衣服を提供するために、洗濯ボランティアを活用しています。また、各ユニットには洗濯機が整備され、おおむね中学生以上の子どもは自分で洗濯できるようにしています。アイロンがけは、子どもに見えるようユニット内で職員が行っており、子ども自身で衣服の管理ができるよう支援しています。

衣類の購入は、発達段階に応じて職員と一緒に出かけたり、子どもが一人で購入できる機会を設けています。また、TPOに合わせた服装ができるよう配慮しながら、できる限り子どもの好みを尊重しています。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	○
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	

<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

施設では、一斉清掃の時間を設けたり、植栽を手入れするなど、施設全体が整美されるよう努めています。共有スペースには絵画クラブ、華道クラブの子どもたちの作品、ユニットのリビングには子どもの賞状などが飾られており、子どもが大切にされていると感じられるよう配慮しています。

施設内には破損箇所や破れた掲示物があることから、速やかな修繕を行うことが望まれます。また、居室については入所前の不適切な環境もあり、きれいに保つことが難しい子どもいますが、発達段階や子どもの状況に応じて整理整頓や掃除の習慣が身につくよう支援することが望まれます。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○

【コメント】

施設では、子ども一人ひとりの空間が確保され、物理的にプライバシーが守られるような環境を整備しています。また、ユニット内の子どもとの上下関係が生じないようにルールを徹底し、居室の出入りを禁止しています。

リビングの掲示物は、管理的な雰囲気を感じさせることから、今後、子どもが「ほっとできる家庭的空間」になるような工夫が望まれます。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身につくよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

【コメント】

職員は、子ども自らの衛生管理や健康管理が身につくよう常に声掛けをしています。なかなか身につかず、個々に応じた支援が課題と捉えています。今後は、健康の保持や衛生管理について子どもが理解し、その方法をも身につける事ができるよう、標準的な実施方法を明確化した上で、個別的に支援していくことが望まれます。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
---	---	---

<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理が必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

子ども一人ひとりの「児童健康記録」には、健康診断書・通院の状況・服薬に関するなどが記録されており、医療機関と連携しながら、子どもの健康状態の把握に努めています。今後は、看護師や心理担当職員を活用しながら、職員間で心身の健康に関する学習の機会を設けるなど、子どもに適切に対応できるような取り組みが望まれます。

(6) 性に関する教育

① A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

施設では、性教育は権利教育と捉え、年に6回、性教育委員会を開催して子どもの性教育について検討する機会を設けています。その中で、子どもの年齢に応じた外部講師を招いての研修や、事故が起きた時の対応について検討しています。また、日常生活の場面では、子どもが他者との境界について意識できるよう取り組んでいます。施設では、性的な加害・被害が起きないよう施設としての予防策はとっていますが、結果として問題が生じていることから、今後は、より効果的な取り組みが望まれます。

(7) 自己領域の確保

① A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	
<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○
<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○

【コメント】

各居室には、子ども一人ひとりのベッド・机・ロッカーなどが用意され、箸・茶碗・お椀なども個人所有となっています。また、好みに個人差の出るシャンプーなどは、各ユニットの予算内で子どもの好みに応じたものを職員と一緒に買い物に行き、購入しています。今後、子どもが所有物の管理を自ら行うことで他者との境界を認識できるよう、居室の整理整頓が身につくような働きかけが望まれます。

②	A31 成長の記録(アルバム等)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりにアルバムが用意されており、ベッドの下など、子どもがいつでも見られるような場所に保管しています。子どもによって写真の量に差異があるため、他児に情報が漏れることのないよう配慮しています。また、児童相談所と相談しながら、個別に家系図などを示し、職員が子どもと一っしょにアルバムを見て成長の振り返りをする機会を設けており、生い立ちの整理につながるよう取り組んでいます。しかし、職員はアルバムの整理は今後の課題と考えています。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもの問題行動については、「びっくり!対応マニュアル」を整備し、それに沿って対応するよう職員間で共有しています。施設では、実際に問題行動が起きた時に、児童相談所や警察と連携して適切に対応でき、沈静化してきていると感じていますが、周囲の子どもの安全を守るための取り組みが課題と考えています。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○

【コメント】

施設では、子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないように養護目標「自分を大切にし、相手の気持ちを考え、仲良くしよう」を掲げ、子どもの関係性を把握しながらユニットの構成に配慮しています。今後、小規模化することで職員の手厚い支援をしていくことが必要であると考えています。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性 がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にな らないようになっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされて いる。	<input type="radio"/>

【コメント】

外部からの問い合わせについては、子どもの情報が漏洩しないよう慎重に対応しています。また、緊急時には警備会社を通して、すぐに警察へ連絡できるような体制となっています。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行って いる。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援 プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で 有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが 行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を 行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設では、心理療法室を整備し、心理担当職員2名を配置して心理的ケアが必要な子どもへ個別的にプレイセラピーや面接などを実施しています。心理担当職員は、担当職員と子どもの日々の生活場面での情報を共有しながら、自立支援計画の支援の内容等を確認し、ケース会議に出席しています。また、児童相談所の心理担当職員との情報交換会を実施しており、連携しながら支援を行っています。

心理担当職員は、「ココロコラム」という資料を作成して、職員の子どもに対する心理的理解が深まるよう、職員会議の際に配布しています。今後、内部研修等も計画をしています。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行って いる。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学 習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個 別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家 庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等 への通学を支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

学習支援については、子どもの学習状況を踏まえ、学習塾や学習ボランティアを活用しています。今後は、学習のための環境づくりに配慮するとともに、学習習慣が身につくような取り組みが望まれます。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援し ている。	b
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収 集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○

【コメント】

進路選択については、担当職員が情報提供をしながら子どもと話し合いをしたうえで、親や学校と協議し、施設長と面接をして決定しています。施設としては、学校との意見を擦り合わせながら、できるだけ子どもの可能性を広げたいと考えています。今後は、職員によって差異が生じないように、進路決定についての手順を標準化するとともに、子どもにもわかりやすい資料を作成することが望まれます。

③ A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

施設では、自立を踏まえて社会経験を積むことを目的にアルバイトを奨励しており、職員が子どものアルバイト先でのさまざまな悩みを聴き、支えています。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

① A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

施設では、家族との信頼関係を構築するため、「一般的な家族交流の流れ」という文書に標準的実施方法が明記され、職員間で共有しています。

家庭支援専門相談員は、保護者の施設に対する不信感が少しでも軽減されるよう、子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう努めています。今後は、家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係の調整・相談に取り組むことが望まれます。

(12) 親子関係の再構築支援

① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
--	---

<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

親子訓練室「やすらぎの家」は、家庭復帰の近い子どもの2泊3日程度の宿泊施設として利用されており、基本的に職員は見守りの体制をとっています。
 家庭支援専門相談員は、家庭訪問をして家族の意向や状況を把握した上で、児童相談所と協議しながら家族の再構築のための支援に取り組んでいます。

(13) スーパービジョン体制

① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	
<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○
<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	○

【コメント】

施設では、スーパーバイザーを専任化しておらず、主任などが相談・助言を行っています。しかし、自己評価において「スーパービジョン体制が確立していない」「不十分である」との回答が多いことから今後、スーパービジョン体制を確立して機能させていくことを期待します。